

環境経営レポート

2023年度(2023年4月～2024年3月)



2024年8月10日 作成

有限会社 石井商店

■1.組織の概要

項目	内容
事業所名	有限会社 石井商店
代表者名	代表取締役 石井 達哉
法人設立年月日	平成9年2月21日
資本金	300万円
本社及び駐車場	本 社：〒294-0045 千葉県館山市北条1722 処理場：〒294-0225 千葉県館山市佐野1037
事業内容	一般廃棄物収集運搬業・中間処理業
環境管理責任者 氏名及び連絡先	環境管理責任者：社長 石井達哉 連絡先 本社：電話 0470-23-2636 FAX 0470-23-2671 ：E-mail t-ishii@wine.ocn.ne.jp 処理場：電話 0470-24-3571

■2.事業の規模

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	百万円	32	40	50	39	28
従業員	人	8	8	8	8	8
床面積(本社、事務所)	m ²	26.40	26.40	26.40	26.40	26.40
床面積(処理場)	m ²	2,780	2,780	2,780	2,780	2,780
電気使用量(本社、事務所)	kWh	5,845	8,439	4,496	4,851	5,784
電気使用量(処理場)	kWh	8,062	8,568	9,824	6,709	7,134
軽油使用量(運搬車両)	ℓ	16,594	16,569	16,246	11,906	10,334
軽油使用量(重機)	ℓ	1,271	1,410	1,319	1,457	1,558
ガソリン使用量	ℓ	379	153	195	94	74
二酸化炭素排出量	kg-co2	54,525	55,798	52,114	39,816	36,577
水道使用量(本社、事務所)	m ³	26	19	19	15	25
水道使用量(処理場)	m ³	雨水利用				

※2021年度以降は、電力排出係数は、本社・処理場共に東京電力エナジーパートナー(株)の0.443kg-CO₂/kWh (R3年度調整後実績)を使用

※2019～2020年度の電力排出係数は、本社0.462kg-CO₂/kWh、処理場0.602kg-CO₂/kWhを使用

■3.登録範囲

3.1 登録事業所

- ・本社 〒294-0045 千葉県館山市北条1722
- ・処理場 〒294-0225 千葉県館山市佐野1037

3.2 事業活動

- ・一般廃棄物収集運搬業
- ・一般廃棄物処分業

3.3 認証・登録日

- ・2018年8月18日

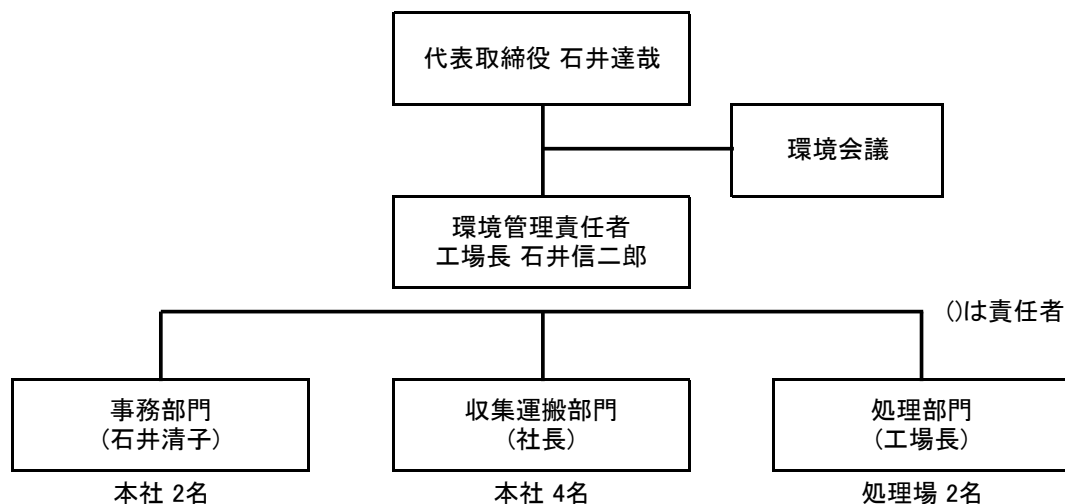
3.4 環境経営レポート期間

- ・2023年4月1日～2024年3月31日

3.4 環境経営レポート作成日

- ・2024年8月10日

■4.環境管理体制（制定：2023年4月1日）



役割責任・権限

代表者(社長)	○環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知
	○EA21の実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者の準備
	○環境管理責任者を任命
	○環境経営レポートの承認
	○課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	○環境経営システムの構築、実施、管理
	○環境関連法令等の取り纏め
	○環境目標・環境活動計画を確認
	○環境活動の取組結果を代表者へ報告
	○環境経営レポートを取り纏め及び確認
事務部門	○本社業務における事務的管理及び実績管理
	○電力、廃棄物量削減管理
	○本社発着収集運搬業務及び清掃業務指示
収集運搬部門	○収集運搬業務に関する現場指揮及び実績管理
	○配車指示、収集運搬作業及びEA21活動現場責任者
	○エコドライブ運転推進管理
処理部門	○処理業務に関する現場指揮及び実績管理
	○処理場の事務、作業管理、指導及びEA21活動現場責任者
	○省燃費、省電力管理
全従業員	○環境方針の理解と環境への取り組みへの重要性の自覚
	○決められた事を守り、自主性・積極的に環境活動へ参加

■5.事業の許可

許可自治体	許可区分	許可番号 登録番号	許可年月日	許可有効期限	事業の規模	施設等の住所
館山市	一般廃棄物収集運搬業 (積替え保管を行う) ※1	館山市指令 第743号	令和6年4月1日	令和8年3月31日	一般廃棄物 館山市全域	積替え保管場所 千葉県館山市佐野 1036、1037番地
館山市	一般廃棄物処分業 ※2	館山市指令 第701号	令和5年4月1日	令和7年3月31日	一般廃棄物 館山市全域	千葉県館山市 佐野1037

※1 取扱廃棄物の種類: 一般廃棄物

※2 取扱廃棄物の種類: 一般廃棄物(金属類、古紙、ガラス類)

■6.施設等

6.1 一般廃棄物積替え保管施設

一般廃棄物積替え保管場所の面積(保管上限:2,780㎡)

〒294-0225 千葉県館山市佐野1036、1037番地

6.2 一般廃棄物処理施設設置

ベルトコンベアによる手選別処理 1基 35.81t/日

6.3 運搬車両等種類と台数

車両種類	台数	車両種類	台数	車両種類	台数	重機	台数
塵芥車(2t)	1	ダンプ(4t)	1	キャブオーバー車(2t)	3	フォークリフト	2



6.4 処理施設

- 手選別及び磁気選別処理 ベルトコンベアー 1台
- 処理能力 35.81トン/日 1日の稼働時間8時間



搬入用コンベアー



選別用コンベアー



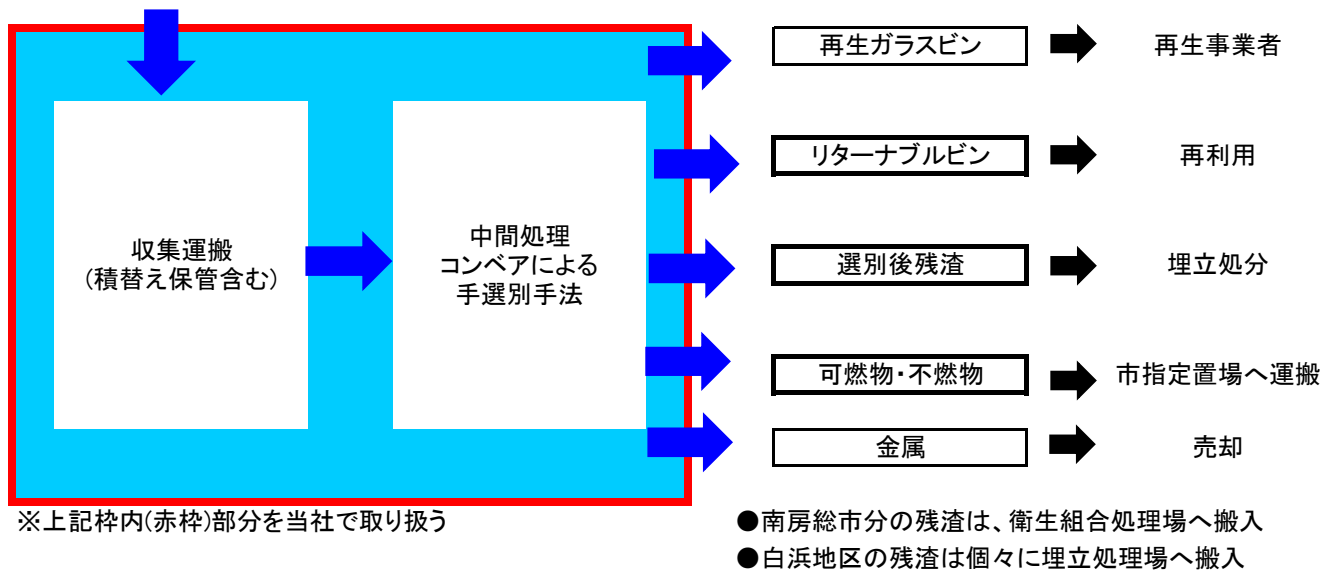
分別品置場



処理場入口

6.5処理工程図

館山市、鋸南地区、南総白浜センター
一般廃棄物不燃物（ガラスくず、ビン）指定置場



■7.一般廃棄物事業実績

単位:トン

	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度		
	理 量 収 集 運 搬 量 及 び 処	再 資 源 化	残 さ 等	理 量 収 集 運 搬 量 及 び 処	再 資 源 化	残 さ 等	理 量 収 集 運 搬 量 及 び 処	再 資 源 化	残 さ 等	理 量 収 集 運 搬 量 及 び 処	再 資 源 化	残 さ 等
館山市	450	332	118	418	336	82	409	357	52	478	295	183
鋸南地区	327	225	102	279	207	72	251	191	59	225	149	76
南総白浜センター	55	15	40	49	25	24	52	34	19	49	12	37
合計	832	572	260	746	568	178	712	582	130	753	457	296

※再資源化量には、リターナルビンも含む

環境経営方針

1.環境理念

有限会社石井商店はガラス・ビンを再生原料化する資源循環型事業に携わりながら、課題とチャンスを踏まえ、次世代への責任として地球環境・化石資源の保護に努め積極的に環境に配慮した事業活動を行い、社会から信頼される企業を目指します。

2.環境経営方針

- 【1】 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量の削減を図るとともに定期的な見直しを行い継続的改善に努めます。
- 【2】 環境関連法規制及び当社が同意した業界・地域の要求事項を遵守し、環境保全に努めます。
- 【3】 ガラスビンの再資源化に努めます。
- 【4】 製品及びサービスへの環境配慮として回収 ― 収集運搬 ― 分別作業を通してガラス・ビンの飛散防止に努めます。

この環境方針は、全社員に周知し、また、公表します。

制定日 : 2018年1月1日

改定日 : 2024年8月10日

有限会社 石井商店

代表取締役

石井達哉

■9.環境活動目標と環境経営計画（2023年度～2025年度）

9.1 環境経営目標

2022年度実績を基準に、2023年度～2025年度の中期経営計画を実施しています。

項目			単位	基準年 2022年度実績	2023年度 目標値	2024年度 目標値	2025年度 目標値
収集運搬量 (ガラス・ビン)の拡大		収集運搬量	t/年	713	713	713	713
処理量 (ガラス・ビン)の拡大		処理量	t/年	579	579	579	579
残渣量の削減		残渣量	t/年	134	134	134	134
電気 使用量 の削減	処理場	使用量	kWh/年	6,709	6,709	6,709	6,709
		原単位 (再生量+残渣量)	kWh/t	9.41	9.41	9.41	9.41
	本社	使用量	kWh/年	4,851	4,851	4,851	4,851
軽油 使用量 の削減	収集運搬車両	使用量	ℓ/年	11,906	11,906	11,906	11,906
		原単位 (使用量/収集量+ 再生量+残渣量)	ℓ/t	8.349	8.349	8.349	8.349
	重機	使用量	ℓ/年	1,457	1,457	1,457	1,457
ガソリン使用量の削減			ℓ/年	94	94	94	94
温室効果ガス排出量の削減 ※1			kg-CO2 /年	39,816	39,816	39,816	39,816
水使用量の 削減	本社	使用量	m ³	15	15	15	15
	処理場	使用量	m ³	雨水利用	雨水利用 ※2チェックシートにて評価		
自社 一般廃棄物 の削減	本社	排出量	kg/年	656	653	649	640
	処理場	排出量	kg/年	1,094	1,089	1,083	1,067
環境配慮(飛散防止)事 故・トラブル件数ゼロの 継続		件数	件	0	0	0	0

※1 電力排出係数は、本社及び処理場共に東京電力エナジーパートナー(株)R3年度調整済み排出係数0.443kg-CO2を使用

※2 環境目標実績管理表にて月次活動として記録

9.2環境活動計画

2023年度～2024年度主な環境活動計画

類別	項目	環境活動の取組	責任者
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 (処理場)	① 均一な選別機への投入でモータ負荷を最小限にする ② コンベアベルトの注油点検整備を行う ③ 現場事務所不在時は照明及びエアコン電源をOFFにする ④ LED照明に切り替えていく	工場長
	電気使用量の削減 (本社)	① 節電告知ラベル貼付 ② エアコンの省エネ運転 ③ 不必要な照明の消灯 ④ クールビス・ウォームビスの実施 ⑤ 省エネ型製品・機器への切り替え ⑥ 照明設備のLED化推進 ⑦ ブラインドカーテンの利用による熱出入り調整	事務部門長
	軽油・ガソリン使用量の削減	① エコドライブ遵守・徹底 ② 運搬時の効率的なルート選択、待機時間短縮 ③ 一般道路では制限速度以下での走行 ④ 適正なシフトチェンジによりエンジン回転数を1,500以下にする ⑤ 燃費管理データの収集 ⑥ ラジエーターフィルターのエアブローを小まめに実施 ⑦ 暖機運転、冷機運転以外のアイドリングストップ ⑧ 重機の負荷荷防止 ⑨ 重機のエコモード運転 ⑩ 重機のアイドリングストップ	社長 工場長
廃棄物削減	自社廃棄物の削減	① ペーパーレス化推進 ② 使用済み用紙、OA紙の裏紙利用 ③ 使用済み封筒の再利用 ④ 分別の徹底による再資源化促進	事務部門長 工場長
資源節約	水使用量の削減	① 水の出しっぱなし注意 ② 漏水点検 ③ 節水コマの設置 ④ 節水ラベルの貼付 ⑤ 散水、洗車への節水	事務部門長
資源回収	ガラス・ビンの収集運搬量確保と再生量の増加	① 資源回収活動のPR ② 残さ等の削減	社長
グリーン購入		① エコマーク商品の選定 ② 購入リスト作成	事務部門長
製品・サービスへの環境配慮		① 運搬時の事故・トラブルゼロ ② 最新の排ガス規制や騒音規制に適合車両の購入 ③ 収集運搬時のガラスびんの飛散防止 ・ 積荷の高さを制限(積荷が撥ねて外枠から飛び出さないように) ・ 必要に応じて積荷にカバーを取り付ける ④ 処理場周辺の環境保全を継続する	社長 工場長

■10. 2023年度活動計画の取組結果
(活動期間: 2023年4月～2024年3月)

評価: ○100%以上、三角100%未満95%以上、X95%未満

項目			単位	2023年度 目標値	2023年度 実績	達成率	活動評価
収集運搬量 (ガラス・ビン)の拡大		収集運搬量	t/年	713	753	105.61%	○
処理量 (ガラス・ビン)の拡大		処理量	t/年	579	467	80.67%	X
残渣の削減		残渣量	t/年	134	286	46.84%	X
電気 使用量 の 削減	処理場	使用量	kWh/年	6,709	7,134	94.04%	X
		原単位 (再生量+残渣量)	kWh/t	9.41	9.47	99.34%	△
	本社	使用量	kWh/年	4,851	5,784	83.87%	X
軽油 使用量 の 削減	収集運搬車両	使用量	ℓ/年	11,906	10,334	115.21%	○
		原単位 (使用量/収集量+ 再生量+残渣量)	ℓ/t	8.349	6.861	121.68%	○
	重機	使用量	ℓ/年	1,457	1,558	93.52%	X
ガソリン使用量の削減			ℓ/年	94.00	74.10	126.86%	○
温室効果ガス排出量の削減 ※1			kg-CO2 /年	39,816	36,576.59	108.86%	○
水使用量の 削減	本社	使用量	m³	15	25	60.00%	X
	処理場	使用量	m³	雨水利用 ※2チェックシートにて評価			○
自社 一般廃棄物 の削減	本社	排出量	kg/年	653	651	100.31%	○
	処理場	排出量	kg/年	1,089	1,085	100.37%	○
環境配慮(飛散防止)事故・トラブル件数ゼロの継続		件数	件	0	0	—	○
グリーン購入		—	—	※2チェックシートにて評価			

※1 電力排出係数は、本社及び処理場は共に東京電力エナジーパートナー(株)R3年度調整済み
排出係数0.443kg-CO2を使用。

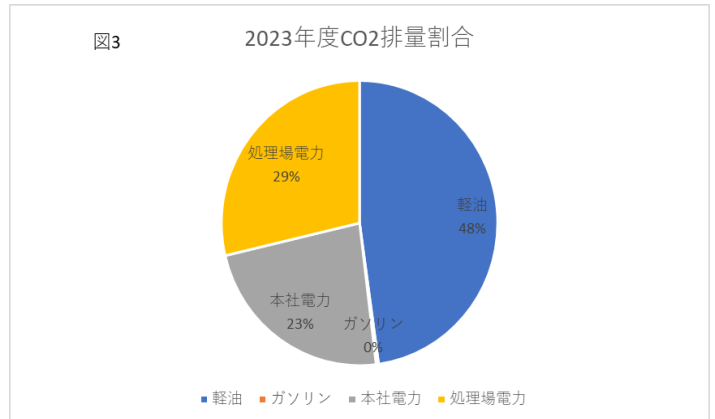
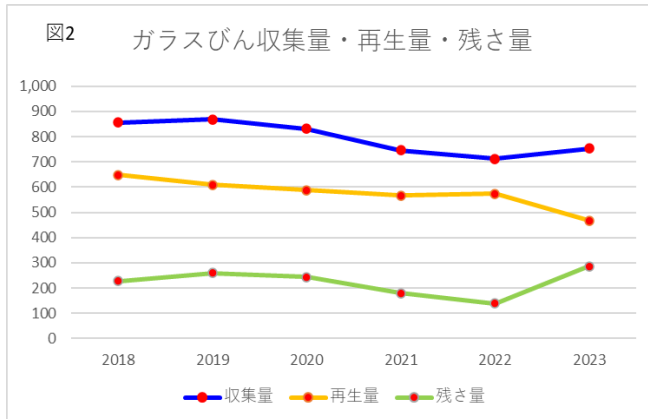
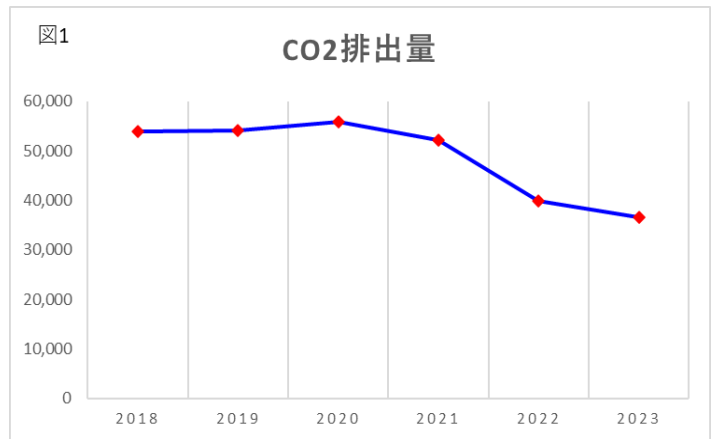
※2 環境目標実績管理表にて月次評価として記録

●2023年度環境経営目標取組結果

① CO2排出量

図1は、通り2018年以降の排出量の推移を示していて、順調に排出量が減少しています。
ガラスびん収集量・再生量・残さ量は、図2の通り、収集量は増加しましたが、再生量の減少、残さ量の増加となりました。
これは、収集量が増加しましたが、収集した、ビン及び金属の中に再生できない廃棄物の混入が多くなり、それらが、再生できないという悪循環に陥っています。

2023年度のCO2排出量の割合は、図3の通りで、電気使用量と軽油使用量が全体の99%を占めていて、ガソリン使用量が減少しています。



② 電力使用量の削減

処理場は、収集運搬量が昨年より106%増加、電力使用量が105%増加して目標に対して未達成である。
また、原単位においてもガラス・ビンの再生量が目標値の84%の達成率であるために未達である。
本社電力使用量も夏場及び秋口猛暑及び残暑の影響で未達成である。

③ 軽油使用量の削減

収集運搬量は増加しているが、エコドライブが全社員全車両で徹底されているため、減少傾向でありまた、原単価も達成した。但し、フォークは稼働時間が多く、未達成でした。

④ ガソリン使用量

昨年同様適切な使用が継続して目標を大幅に達成しました。

⑤ 水使用量

水使用量が目標使用量に対して、60%と未達成であった。
尚、一層の節水を心掛けたい。

⑥ グリーン購入及び環境配慮

グリーン購入は事務用品等の購入を引き続きエコマーク入商品の購入を実施。
2024年度からは、グリーン購入の管理は削除します。
環境配慮に関しても、ガラス・ビンの収集運搬中の飛散防止に引き続き取り組み、2023年度も事故・苦情等ゼロ件でした。

⑦ 緊急事態訓練

- ・リチウムイオン電池等の危険性を案内したリーフレットを使用して座学で学習会を開きました。
また、発見したリチウムイオン電池等は、行政へ処理などをお願いすることになっています。
- ・処理場にて地震緊急事態対応訓練を行う。

●2023年度環境活動計画取組結果

類別	項目	環境活動の取組	責任者	評価
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 (処理場)	① 均一な選別機への投入でモータ負荷を最小限にする ③ コンベアベルトの注油点検整備を行う ④ 現場事務所不在時は照明及びエアコン電源をOFFにする ⑤ LED照明に切り替えていく	工場長	○
	電気使用量の削減 (本社)	① 節電告知ラベル貼付 ② エアコンの省エネ運転 ③ 不必要な照明の消灯 ④ クールビス・ウォームビスの実施 ⑤ 省エネ型製品・機器への切り替え ⑥ 照明設備のLED化推進 ⑦ ブラインドカーテンの利用による熱出入り調整	事務部門長	○
	軽油・ガソリン使用量の削減	① エコドライブ遵守・徹底 ② 運搬時の効率的なルート選択、待機時間短縮 ③ 一般道路では制限速度以下での走行 ④ 適正なシフトチェンジによりエンジン回転数を1,500以下にする ⑤ 燃費管理データの収集 ⑥ ラジエーターフィルターのエアブローを小まめに実施 ⑦ 暖機運転、冷機運転以外のアイドリングストップ ⑧ 重機の負荷荷防止 ⑨ 重機のエコモード運転 ⑩ 重機のアイドリングストップ	社長 工場長	 ○ ○
廃棄物削減	自社廃棄物の削減	① ペーパーレス化推進 ② 使用済み用紙、OA紙の裏紙利用 ③ 使用済み封筒の再利用 ④ 分別の徹底による再資源化促進	事務部門長 工場長	 ○ ○
資源節約	水使用量の削減	① 水の出っぱなし注意 ② 漏水点検 ③ 節水コマの設置 ④ 節水ラベルの貼付 ⑤ 散水、洗車への節水	事務部門長	○
資源回収	ガラス・ビンの収集運搬量確保と再生量の増加	① 資源回収活動のPR ② 残さ等の削減	社長	○
グリーン購入		① エコマーク商品の選定 ② 購入リスト作成	事務部門長	○
製品・サービスへの環境配慮		① 運搬時の事故・トラブルゼロ ② 最新の排ガス規制や騒音規制に適合車両の購入 ③ 収集運搬時のガラスびんの飛散防止 ・ 積荷の高さを制限(積荷が撥ねて外枠から飛び出さないように) ・ 必要に応じて積荷にカバーを取り付ける ④ 処理場周辺の環境保全を継続する	社長 工場長	 ○ ○

評価:○十分な活動があった。△まだ改善の余地があった。×未実施であった。

■11. 2024年度以降の中経営活動目標及び計画の見直し

2023年度に2022年度実績を基に2023年度～2025年度の活動目標を策定したが、過去8年分の実績を基に新たに2024年度～2026年度の中期経営目標及び経営計画を策定します。

11.1 中期経営目標

項目			単位	基準値	2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標
収集運搬量 (ガラス・ビン)の拡大		収集運搬量	t/年	752	752	752	752
処理量 (ガラス・ビン)の拡大		処理量	t/年	536	536	536	536
残渣の削減		残渣量	t/年	311	308	305	302
電気 使用量 の 削減	処理場	使用量	kWh/年	8,757	8,669	8,583	8,497
		原単位 (再生量+残渣量)	kWh/t	10.34	10.27	10.21	10.14
	本社	使用量	kWh/年	7,046	6,976	6,906	6,837
軽油 使用量 の 削減	収集運搬車両	使用量	ℓ/年	18,810	18,622	18,436	18,251
		原単位 (使用量/収集量+ 再生量+残渣量)	ℓ/t	11.764	11.668	11.573	11.479
	重機	使用量	ℓ/年	1,486	1,471	1,456	1,442
ガソリン使用量の削減			ℓ/年	82	81	80	80
温室効果ガス排出量の削減 ※1			kg-CO2 /年	59,555	58,959	58,370	57,786
水使用量の 削減	本社	使用量	m ³	29	29	29	29
	処理場	使用量	m ³	雨水利用	雨水利用 ※2チェックシートにて評価		
自社 一般廃棄物 の削減	本社	排出量	kg/年	660	657	653	650
	処理場	排出量	kg/年	1,100	1,095	1,089	1,084
環境配慮(飛散防止)事 故・トラブル件数ゼロの 継続		件数	件	0	0	0	0

※1 電力排出係数は、本社及び処理場共に東京電力エナジーパートナー(株)R3年度調整済み排出係数0.443kg-CO2を使用

※2 環境目標実績管理表にて月次活動として記録

※ 基準値は、2016～2023年度実績の平均値に、拡大目標は平均値のばらつきに標準偏差をマイナス、削減目標は平均値のばらつきに標準偏差を加味した数値を目標値としています。

※ 年度目標は、拡大は基準値を継続的にいき、削減目標は2024年度は基準値に対してマイナス1%、次年度以降は前年度目標値マイナス1%とする。

11.2 環境経営計画

類別	項目	環境活動の取組	責任者
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 (処理場)	① 均一な選別機への投入でモータ負荷を最小限にする ② コンベアベルトの注油点検整備を行う ③ 現場事務所不在時は照明及びエアコン電源をOFFにする ④ LED照明に切り替えていく	工場長
	電気使用量の削減 (本社)	① 節電告知ラベル貼付 ② エアコンの省エネ運転 ③ 不必要な照明の消灯 ④ クールビス・ウォームビスの実施 ⑤ 省エネ型製品・機器への切り替え ⑥ 照明設備のLED化推進 ⑦ ブラインドカーテンの利用による熱出入り調整	事務部門長
	軽油・ガソリン使用量の削減	① エコドライブ遵守・徹底 ② 運搬時の効率的なルート選択、待機時間短縮 ③ 一般道路では制限速度以下での走行 ④ 適正なシフトチェンジによりエンジン回転数を1,500以下にする ⑤ 燃費管理データの収集 ⑥ ラジエーターフィルターのエアブローを小まめに実施 ⑦ 暖機運転、冷機運転以外のアイドリングストップ ⑧ 重機の負荷荷防止 ⑨ 重機のエコモード運転 ⑩ 重機のアイドリングストップ	社長 工場長
廃棄物削減	自社廃棄物の削減	① ペーパーレス化推進 ② 使用済み用紙、OA紙の裏紙利用 ③ 使用済み封筒の再利用 ④ 分別の徹底による再資源化促進	事務部門長 工場長
資源節約	水使用量の削減	① 水の出しっぱなし注意 ② 漏水点検 ③ 節水コマの設置 ④ 節水ラベルの貼付 ⑤ 散水、洗車への節水	事務部門長
資源回収	ガラス・ビンの収集運搬量確保と再生量の増加	① 資源回収活動のPR ② 残さ等の削減	社長
製品・サービスへの環境配慮		① 運搬時の事故・トラブルゼロ ② 最新の排ガス規制や騒音規制に適合車両の購入 ③ 収集運搬時のガラスびんの飛散防止 ・ 積荷の高さを制限(積荷が撥ねて外枠から飛び出さないように) ・ 必要に応じて積荷にカバーを取り付ける ④ 処理場周辺の環境保全を継続する	社長 工場長

11.3 環境経営目標値につて

- 基準値の設定について

2016年度～2023年度実績値の平均値のばらつきに標準偏差を加減したものを基準値として採用

- ・拡大目標について

平均値のばらつきに標準偏差をマイナスにした値を採用

- ・削減目標について

電力及び軽油使用量削減においては、平均値のばらつきに標準偏差を加味した値を採用

ガソリン使用量削減は、平均値のばらつきに標準偏差を減じた値を採用(直近2年(2022年度2023年度を参考))

水使用量、自社廃棄物の削減は、平均値のばらつきに標準偏差2σを加味した値を採用。

- 各年度目標(2024年度～2026年度)について

収集運搬量及び処理量は基準値を継続的維持をする。

削減目標は、2024年度は基準値目標のマイナス1%、2025年度以降は前年度目標値に対して1%マイナスとする。

- グリーン購入は、管理目標値から削除する。

- 製品・サービスへの環境配慮は、引き続きゼロを維持継続する。

■12. 環境関連法令への違反、訴訟の有無

当社が遵守しなければならない主な法令等は下記の通り

廃棄物の処理及び清掃に関する法律	フロン排出抑制法	特定家庭用機器再商品化法
消防法	自動車NoX・PM法	労働安全衛生法
オフロード法	道路交通法	計量法
小型家電リサイクル法	館山市公害防止条例	

- 2024年4月25日に2023年度(2023年4月～2024年3月)の遵守評価表に基づき評価した結果、違反また、関係関連当局から違反等の指摘及び訴訟は過去3年間ありませんでした。

■13. 代表者による全体の評価と見直し

報告事項	管理責任者からの報告内容	見直等指示
環境目標及びパフォーマンス	収集運搬量の増加に伴う電力使用量が増加し未達成であった。 また、再生量の減少により電力使用量の原単価悪化している。 但し、軽油の使用量はエコドライブの徹底により収集運搬量が増加したにもかかわらず目標値をクリアして、CO2排出量も目標値をクリアできた。 再生可能なものの減少によりそれに伴う残さ(がれき量)が昨年より大幅に増加して昨年の200%となってしまうている。	新たに2024年度以降の目標について見直しを行ってください。
環境関連法令	2024年5月24日に登録一覧表により遵守評価表を行ったが問題なし。	引き続き法令遵守を行ってください。
外部からの苦情・要望	外部からの環境に関わる苦情・要望は無かった。	苦情等が寄せられた場合は速やかに報告をしてください。
緊急事態の発生と訓練	2023年8月8日に処理場にて地震緊急事態対応訓練を実施。 2024年3月19日にリチウムイオン電池等による廃棄物混入による、火災事故に関して、関係省庁が作成しているリーフレットなどで勉強会を行った。	訓練は継続的に行ってください。
是正及び予防措置の状況	ガラス・ビンの再生量、残渣量の増加が2023年度下期に連続6ヶ月間目標値を未達成であったため、是正及び予防措置を行いました。	予防措置に従い実行してください。
見直しに必要な情報等	2023年度中間審査で次の指摘があった。 ① 負荷シートアウトプットに金属(売却)、可燃物(市処理施設での焼却)の集計結果を記載すること → 2023年度負荷シートへ記載 ② リチウムイオン電池等を含んだ電子機器を重機で踏んでしまっ火災発生を想定して緊急事態訓練の実施を推奨する。 → 関係省庁等から発行しているリーフレットで学習会の実施	確認しました。
前回の見直しの指示に対するフォローアップ	全社員一丸となって目標達成に向けて取り組む。	E21の理念をしっかり把握して取り組んでください。
社長からのメッセージ	ガラス・ビンの再生量が減少傾向にある、ひとえに事業者が取扱が簡単な容器等に移行していることがうかがえるが、未だにガラスでしかだめなものもあるため、事業は継続しなければならない。 軽油使用量に関してはエコドライブの徹底等で抑えられている、CO2排出量の抑制には、このエコドライブ徹底や節電意識等を高く持って日頃から環境を意識して従事することが肝要である。 今後も全社員一丸となって環境目標達成に向けて取り組んでいく。	

変更の必要性の有無	① 環境方針	グリーン購入についてを削除する
	② 環境経営目標	新たに基準値を設けて2024～2026年度の目標値を策定
	③ 環境経営計画	②の環境経営目標に対する計画を作成
	④ 経営環境システム(組織体制を含む)	変更なし